

第 1 回検討会における意見への対応方針

ご意見及び対応方針

【国際園芸博覧会における 新たな見せ方について】

- ・博覧会開催前からモデル的に住んで、
緑や農の暮らしを体験し、暮らしそのものを
展示物として見せられないか。

- ・ 滞在型で緑や農の暮らしを見せるコンテンツ等、国際園芸博覧会における新たな見せ方について、**会場計画における空間配置や、共創の展開等と合わせて引き続き検討**。その際、法制度や会場整備等のスケジュール等からの検証を行うとともに、コミュニティの巻き込みも含めて検討。

3.参加方針 4.コミュニケーション計画 5.会場計画 6.展示・行催事計画（コンテンツ）
12.レガシー計画

【農について】

- ・国の根本的な農業問題（食料自給率等）を発信すべき。
- ・日本の農業における伝統文化や「農の心」は非常に重要。
- ・先進国の中で産業としての都市農業が息づいている国は日本以外にない。社会実験としての場を活かし、レガシーとしてつなげていくことはできないか。

- ・ サブテーマに「**農**」の視点を強化。「緑や農による共存」「連携による解決」において、日本が培ってきた**農業文化**や、農の営みを通じて**人と人との繋がりを大切に**する「**農の心**」の要素を入れ込む。
- ・ サブテーマを踏まえ、日本の農の心、農業の価値の発信や、農業が抱える課題の提起を意識して、今後コンテンツ等を検討していく。
- ・ また、共創において、農業に係る課題解決や農関連産業の発展に向けた取り組みも検討していく。

2.テーマ・サブテーマ・事業コンセプト 3.参加方針 6.展示・行催事計画（コンテンツ）
12.レガシー計画

【園芸関連産業の発展について】

- ・国際園芸博覧会として焦点を当てる（声援を送る）対象は、園芸・農業・造園業に携わっている当事者であるべき。
- ・園芸関係産業の発展に寄与するコンテスト（コンクール）の開催促進や、日本で先行している研究・技術分野の情報発信が必要。

- ・ 多様な主体を参加者と捉える中でも、国際園芸博覧会においては**花き・園芸、造園関係の事業者は特に重要な役割。国内外の多くの園芸関連事業者が博覧会に関われるよう意識**して取り組む。
- ・ 特に**コンペティション等への参加・切磋琢磨を促進**し、積極的に評価するとともに、ビジネス発展の機会を創出。
- ・ コンテンツにおいて、日本が誇る**研究成果や技術**を発信。

3.参加方針 4.コミュニケーション計画 6.展示・行催事計画（コンテンツ・コンペティション）

ご意見及び対応方針

【格差の克服、幸せについて】

- ・格差の問題をどう克服していくか。インクルーシブな社会にチャレンジする博覧会とするべき。
- ・コロナ後を踏まえた幸せの在り方を考えていく必要がある。
- ・最先端、最新技術に焦点を当てるだけでなく足元を振り返ることも大切。

- ・ COVID-19の拡大によるライフスタイルや価値観の変化等も踏まえ、豊かさや幸せの在り方を改めて考える契機とする。
- ・ サブテーマ「連携による解決」にインクルーシブな社会形成の視点を追加。先端技術のみならず、古来から培われたシェアリングエコノミーの原型ともいえる日本の「農の心」などの文化や知恵を世界に発信・シェアしながら、多様性を尊重する社会実現への寄与を目指す。
- ・ 多様な主体の横断的な参加システム、共創による課題解決を目指す。

2.テーマ・サブテーマ・事業コンセプト 3.参加方針 5.会場計画
6.展示・行催事計画（コンテンツ） 10.組織・資金計画 12.レガシー計画

【共創等について】

- ・新産業や共創にあたっては、どの枠組みで価値を創造するのが大事。
- ・アート力は大きい。アートのコンテンツができると面白い。

- ・ 共創はサブテーマに即して、新産業創出は花き・園芸・農や生命関連産業を核として取り組む方向で検討。具体的な仕組み等は今後検討。
- ・ 事業コンセプト「行動変容に繋げる」に「アート」「エンターテインメント」の視点を追加。

3.参加方針 6.展示・行催事計画（コンテンツ）

【来場の考え方について】

- ・コロナの後の状況やシェアする技術の進展を踏まえると、博覧会というものの考え方自体をチェンジするものになり得る。
- ・バーチャルも含めた参加形態を検討していくと良い。

- ・ 2027年における情報共有技術を見据え、リアルな来場以外の参加形態（バーチャル参加等）や共創を主軸とした参加形態（繰り返し参加）等についても、料金設定やチケットのあり方を含めて検討。
- ・ 参加形態と併せ、安全性、快適性、満足度等の観点からの検討も踏まえて、来場者数の考え方や目標について検討。

3.参加方針 4.コミュニケーション計画 5.会場計画
7.会場運営・管理計画（来場者サービス） 8.輸送計画 9.情報基盤計画

ご意見及び対応方針

【事業構造について】

・国際園芸博覧会としてふさわしい事業構造を検討すべき。

- ・ **国際園芸博覧会として適切な事業構造（資金計画、組織体制等）**について、愛知万博や大阪・関西万博だけでなく、淡路、浜名湖花博や他国の国際園芸博覧会も参考に検討。

基本計画案全体の構造 10.組織・資金計画

【会場計画について】

・偏西風が荒れ始めており、川、地層、土壌の問題等はよく検討していった方が良い。

- ・ **会場計画の検討**にあたっては、自然ポテンシャルを最大限活かしながら、**地形や気候等を十分に考慮。**

5.会場計画

【レガシーについて】

・既存手法でできなかったことを社会実験としての場を活かし、レガシーとしてつなげていくことはできないか。

・プロセスを得た結果生まれるのがレガシー。最初から「事後にこういうものをつくるからこういう博覧会にする」というアプローチは避けてほしい。

- ・ 博覧会前～博覧会後に至る時間軸やプロセスを踏まえ、**共創の考え方や進捗と併せてレガシーの創出・継承について検討。**

2.テーマ・サブテーマ・事業コンセプト 4.コミュニケーション計画 5.会場計画
6.展示・行催事計画（コンテンツ） 12.レガシー計画